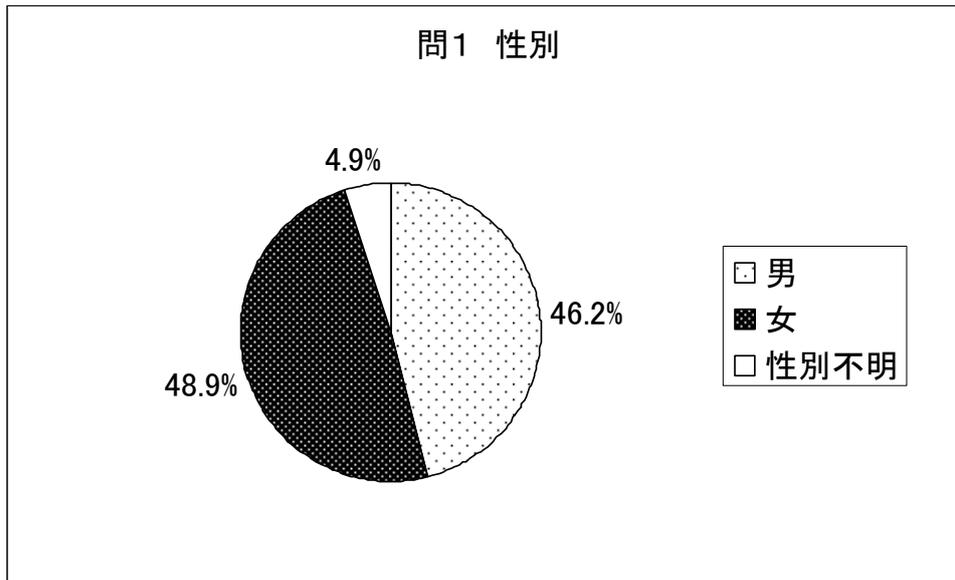


【Ⅰ】中学生調査

《1》 回答者の性別

問1 あなたの性別は

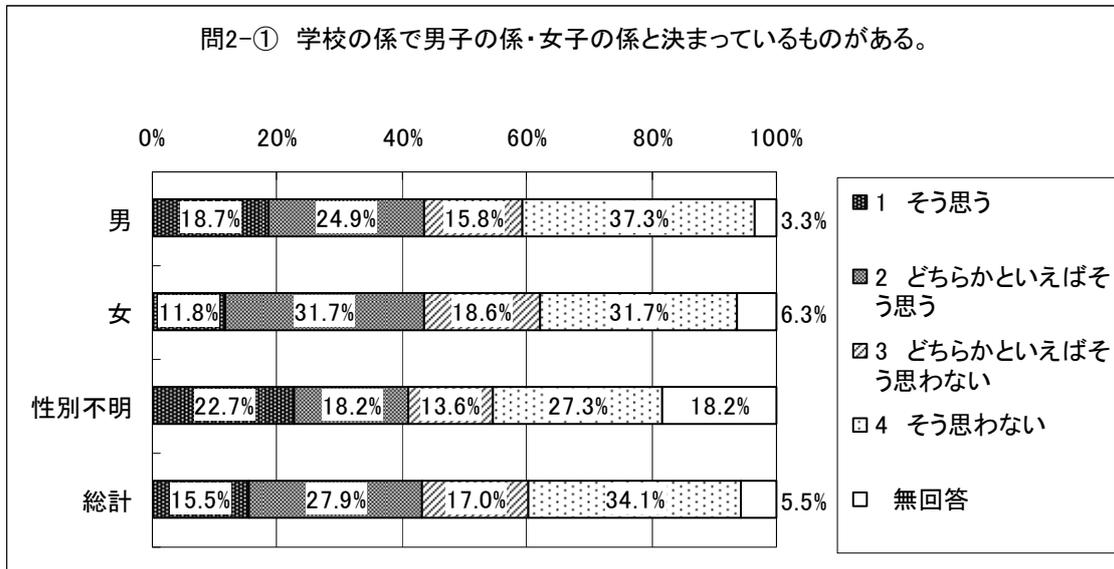
| | 男子 | 女子 | 性別不明 | 合計 |
|-----|-------|-------|------|------|
| 人数 | 209 | 221 | 22 | 452 |
| 構成比 | 46.2% | 48.9% | 4.9% | 100% |



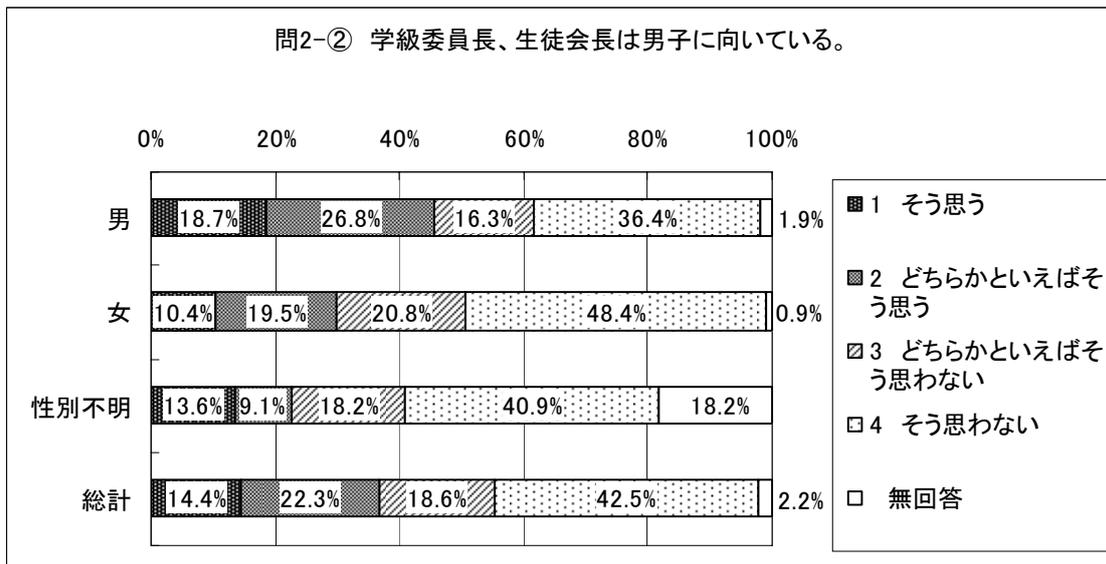
*性別不明は性別記入のないもの

《2》男女の性差についての意識

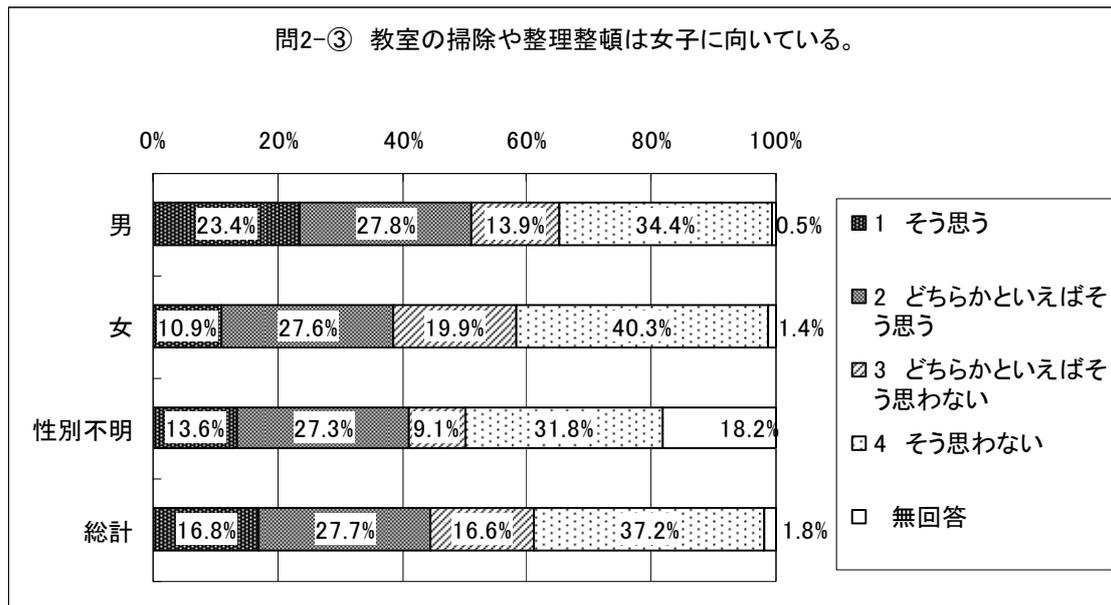
問2 次のことについてどう思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



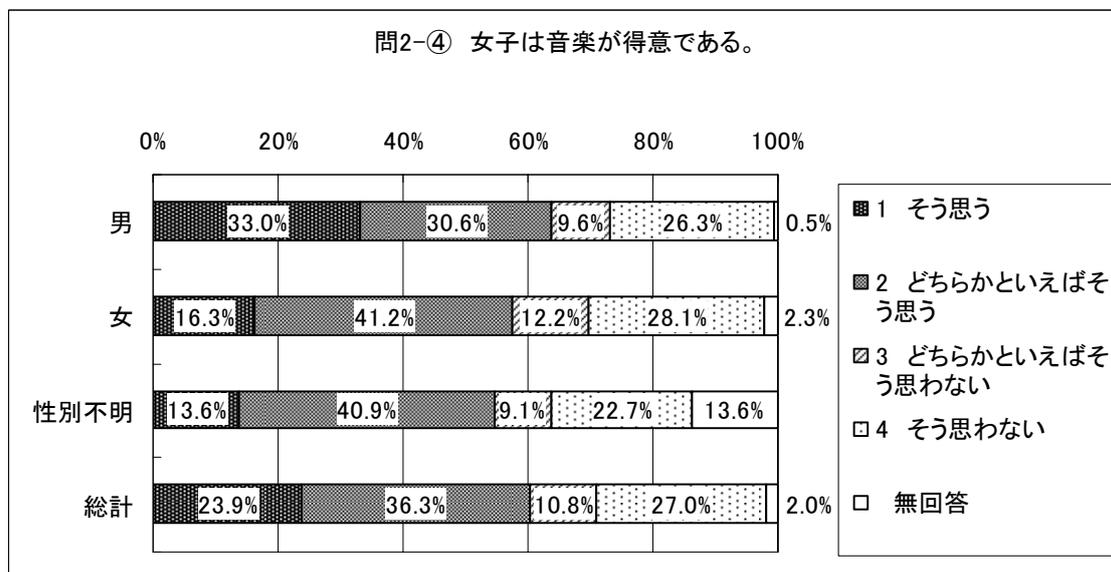
全体で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合（以下「肯定」とする）が43.4%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合（以下「否定」とする）が51.1%となっている。



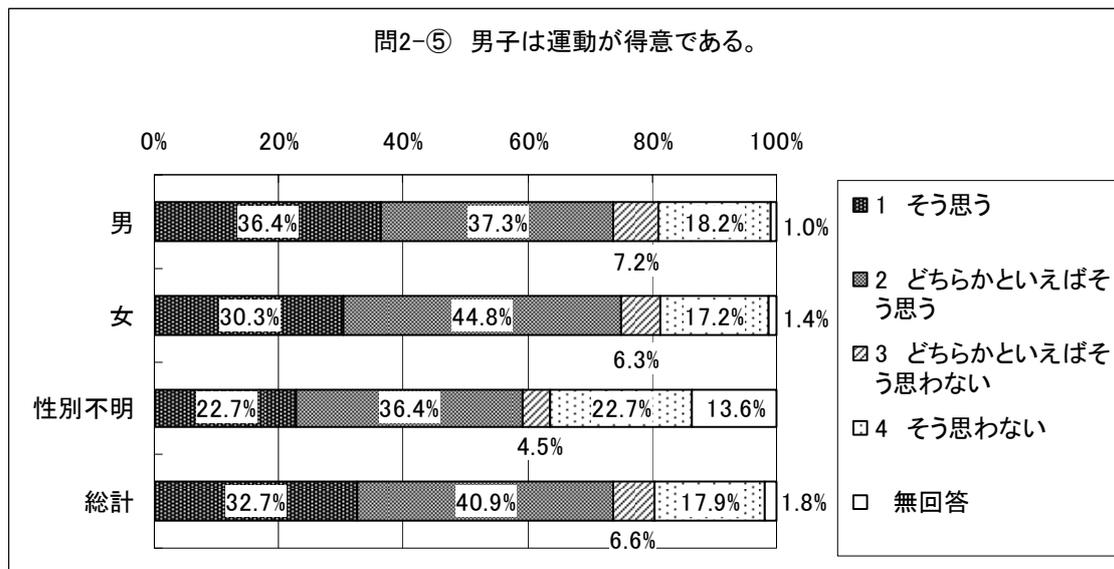
全体で「肯定」の割合が36.7%、「否定」の割合が61.1%となっている。
男女別に「肯定」の割合をみると、男子のほうが女子より約15ポイント高くなっている。



全体で「肯定」の割合が44.5%、「否定」の割合が53.8%となっている。
男女別に「肯定」の割合をみると、男子のほうが女子より約13ポイント高くなっている。



全体で「肯定」の割合が60.2%、「否定」の割合が37.8%となっている。
男女別に「肯定」の割合をみると、男子が63.6%女子が57.5%となっている。



全体で「肯定」の割合が73.6%、「否定」の割合が24.5%となっている。
男女別に「肯定」の割合をみると、男子が73.7%女子が75.1%となっている。

学校の中でのことで男女の役割や能力に違いがあると思うかどうかについて、具体的に下の5つのことがらをあげて聞いた。いずれも男女の性差があると思う場合に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を選び、男女の性差がないと思う場合は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を選ぶ設問になっている。

各項の数字は左から「そう思う」「どちらかといえばそう思う」（肯定）と「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」（否定）の割合である。単位は%。

| | | |
|---------------------------------|------|------|
| ①学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある。（係） | 43.4 | 51.1 |
| ②学級委員長・生徒会長は男子に向いている。（委員長） | 36.7 | 61.1 |
| ③教室のそうじや整理整頓は女子に向いている。（そうじ） | 44.5 | 53.8 |
| ④女子は音楽が得意である。（音楽） | 60.2 | 37.8 |
| ⑤男子は運動が得意である。（運動） | 73.6 | 24.5 |

- (1) 「否定」の割合が高いものから順に並べると、②（委員長）、③（そうじ）、①（係）、④（音楽）、⑤（運動）の順になっている。
- (2) 「肯定」の割合が「否定」の割合より高いのは⑤（運動）49.1ポイント差、④（音楽）22.4ポイント差で、低いのは①（係）-7.7ポイント、③（そうじ）-9.3ポイント、もっとも低いのは②（委員長）-24.4ポイントである。
- (3) 男女別にみると①（係）④（音楽）⑤（運動）は、男子と女子の「肯定」の割合の差が10ポイント以下である。これに対して男子のほうが女子より「肯定」の割合が

- 10ポイント以上高くなっているのは②（委員長）と③（そうじ）である。
- (4) 以上のことから中学生は④（音楽）や⑤（運動）について、男女とも性差がある
と考えるものがそうでないと考えるものより多くなっている。②（委員長）につい
ては、逆に、性差がないと考えるものが多くなっている。

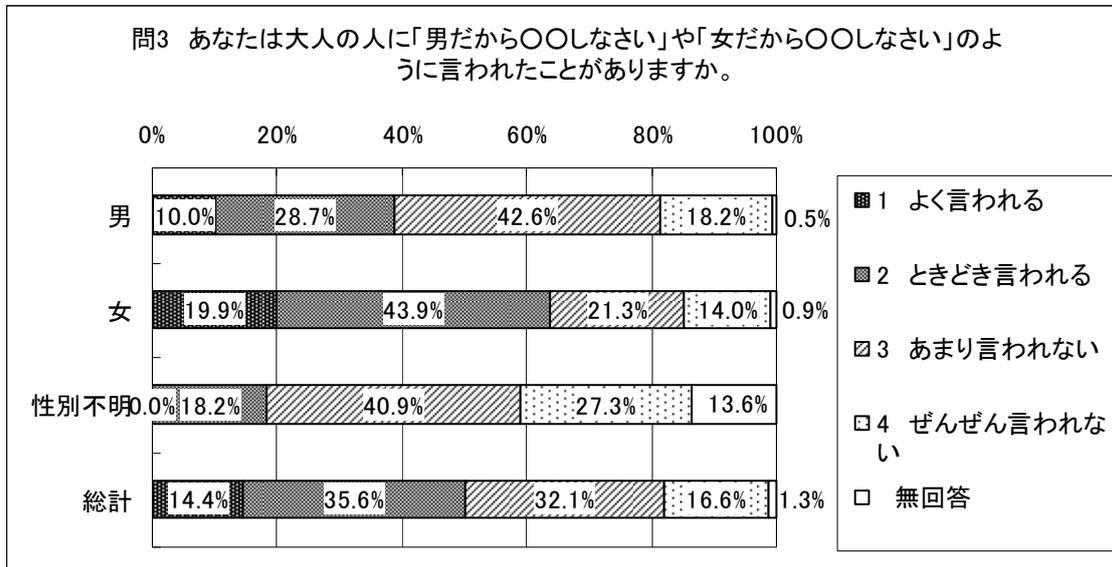
小学生調査との比較

小学生調査の間2で同じ設問を設けている。中学生調査の項目数は5つであるのに対し、小学生調査では項目数が8つと多くなっているが、小学生調査の①が①（係）と、⑤が②（委員長）と、⑥が③（そうじ）と、⑦が④（音楽）と、⑧が⑤（運動）と、それぞれ同じになっている。

- (1) ①（係）について、中学生調査では「肯定」が43.4%、「否定」の割合が51.1%である。小学生調査では「肯定」の割合が29.8%、「否定」の割合が69.3%である。
- (2) ②（委員長）について、中学生調査では「肯定」の割合が36.7%で、「否定」の割合が61.1%である。小学生調査では「肯定」の割合が30.7%で、「否定」の割合が68.2%である。
- (3) ③（そうじ）について、中学生調査では「肯定」の割合が44.5%で、「否定」の割合が53.8%である。小学生調査では「肯定」の割合が64.1%で、「否定」の割合が35.0%である。
- (4) ④（音楽）について、中学生調査では「肯定」の割合が60.2%で、「否定」の割合が37.8%である。小学生調査では「肯定」の割合が78.3%で、「否定」の割合が20.9%である。
- (5) ⑤（運動）について、中学生調査では「肯定」の割合が73.6%で、「否定」の割合が24.5%である。小学生調査では「肯定」の割合が83.0%で、「否定」の割合が16.0%である。小学生より中学生のほうが「肯定」の割合が低くなっている。
- (6) 以上のことから、①（係）と②（委員長）で中学生のほうが小学生より「肯定」の割合が高くなっており、③（そうじ）④（音楽）⑤（運動）で中学生のほうが小学生より「肯定」の割合が低くなっていることがわかる。

《3》性別役割意識に対する大人の影響

問3 あなたは大人の人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」のように言われたことがありますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



性別役割を意識する上で、どのくらい大人から直接の影響を受けているかをみるため、大人に「男だから〇〇しなさい」「女だから〇〇しなさい」と言われた経験があるかないかについて聞いた。

全体で「よく言われる」「ときどき言われる」の割合は50.0%で、「あまり言われたい」「ぜんぜん言われたい」の割合は48.7%である。

男女別にみると、「よく言われる」「ときどき言われる」の割合は男子38.7%、女子63.8%となっており、「あまり言われたい」「ぜんぜん言われたい」の割合は男子60.8%、女子35.3%となっている。

小学生調査との比較

小学生調査では「よく言われる」「ときどき言われる」の割合は、全体で55.6%男子53.1%女子57.9%となっている。

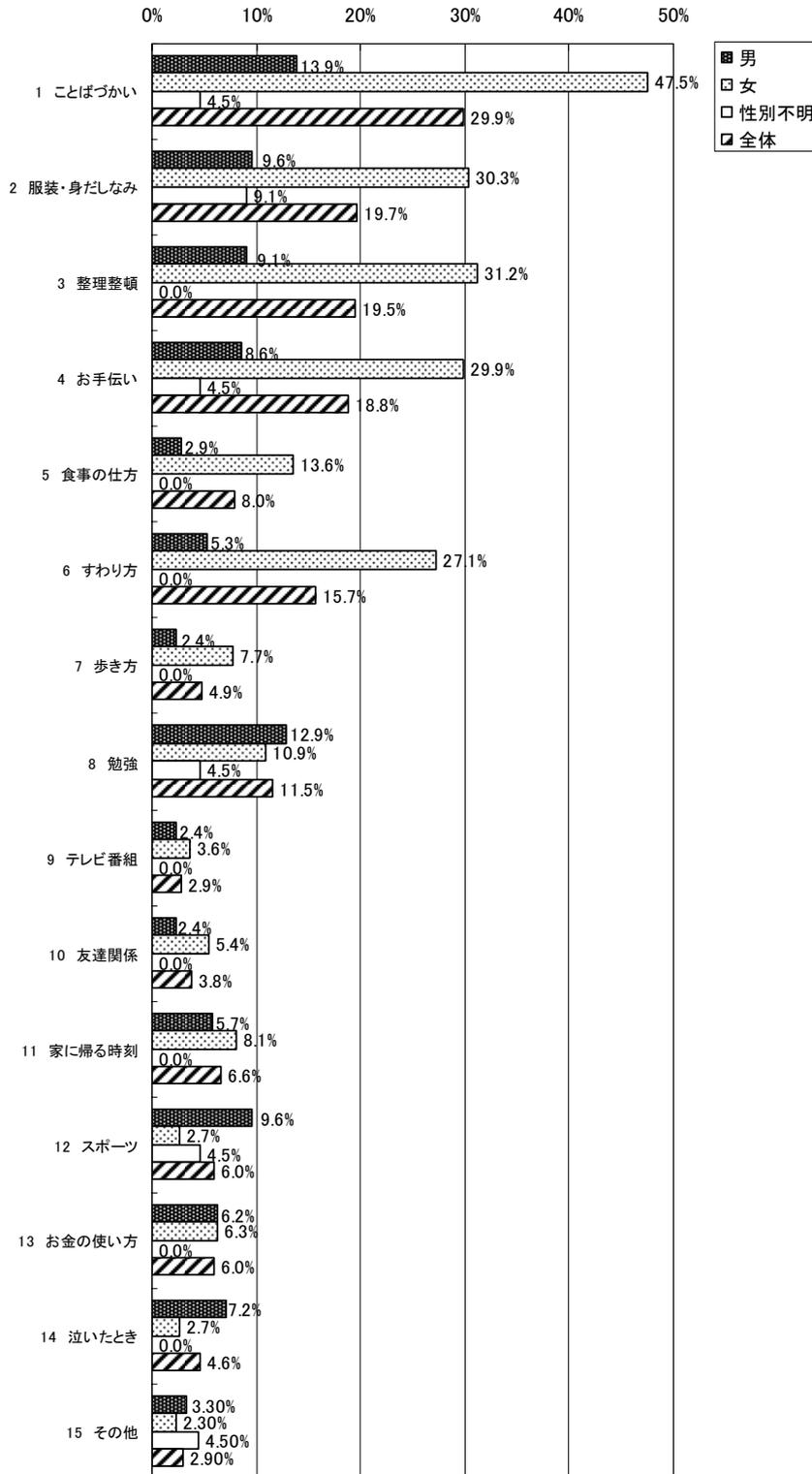
中学生と小学生を比較すると、全体で中学生のほうが小学生より5.6ポイント低くなっている。

男子は中学生のほうが小学生より14.4ポイント低くなっている。

しかし女子は中学生のほうが小学生より5.9ポイント高くなっている。

問4 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。どんな時に言われましたか。あてはまる番号全部に○をつけてください。

問4 どんな時に「男だから〇〇しない」や「女だから〇〇しない」と言われましたか。



「よく言われる」「ときどき言われる」と答えたものに、どんな時に言われたか、「ことばづかい」「服装・身だしなみ」「泣いたとき」など14の具体的な場合をあげて聞いた。(複数回答)

なお全体の中のどれだけの子どもが言われているかをみるため、各項目の割合を出すにあたって、分母は問3で「よく言われる」「ときどき言われる」と答えたものではなく、それぞれ全体の総数、男子総数、女子総数、性別不明の総数としている。

多かった順に上位5つは「ことばづかい」「服装・身だしなみ」「整理整頓」「お手伝い」「すわり方」で、「ことばづかい」は女子の2人に1人が言われた経験があると答えている。「服装・身だしなみ」「整理整頓」「お手伝い」「すわり方」は女子の約30%が言われた経験があると答えている。これらの項目のすべてで男子は5%~10%である。

6位以下は「勉強」「食事の仕方」「家に帰る時刻」「スポーツ」「お金の使い方」「歩き方」「泣いたとき」「友達関係」「テレビ番組」の順になっている。

男子が女子より割合が高かった項目は「勉強」「スポーツ」「泣いたとき」の3つであるが、その割合は「勉強」男子12.9%女子10.9%「スポーツ」男子9.6%女子2.7%「泣いたとき」男子7.2%女子2.7%となっている。

なお「その他」(男子3.3%女子2.3%)は男子では「力仕事」2件「けじめ」「進路」の4件、女子では「ケンカ」「挨拶・礼儀」「食事の時」「性格」の4件であった。

小学生調査との比較

小学生では、全体で見ると、割合の高いものから順に「ことばづかい」「整理整頓」「お手伝い」「すわり方」「勉強」の順になっている。

「ことばづかい」は小学生・中学生とも1位で、中学生で29.9%、小学生で24.2%となっている。男女別にみると、男子は小学生で12.9%中学生で13.9%であるが、女子は小学生で35.0%中学生で47.5%となっている。

「服装・身だしなみ」は中学生で2位(19.7%)だが、小学生では8位(13.5%)になっている。

「お手伝い」は男女別にみると、中学生男子で8.6%小学生男子で11.7%だが、中学生女子で29.9%小学生女子で19.9%となっている。

「泣いたとき」は中学生で12位(4.6%)だが、小学生では6位(14.3%)になっている。

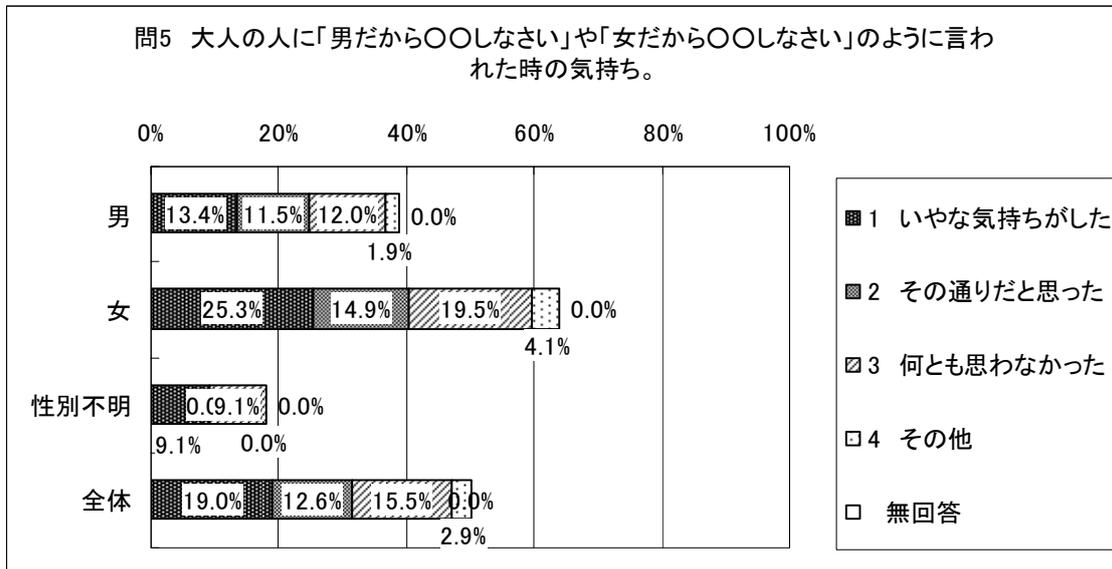
小学生調査で男子が女子を大きく上回っているのは「スポーツ」男子21.1%女子5.9%と「泣いたとき」男子22.9%女子5.6%だけである。

「勉強」「家に帰る時刻」「お金の使い方」も男子が女子を上回っている。

小学生調査で女子が男子を大きく上回っているのは、差が大きいものから順に「ことばづかい」女子35.0%男子12.9%「服装・身だしなみ」女子22.3%男子4.7%「座り方」女子21.7%男子7.9%「整理整頓」女子19.9%男子11.7%「お手伝い」女子19.9%男子11.7%となっている。

「食事の仕方」「歩き方」「友だち関係」も女子のほうが男子より多い。

問5 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。あなたはその時どんな気持ちになりましたか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



「よく言われる」「ときどき言われる」と答えたものに、どんな気持ちでしたか聞いた。

「いやな気持ちでした」の割合は女子25.3%のほうが男子13.4%より10ポイントほど高い。男子では「いやな気持ちでした」13.4%と「その通りだと思った」11.5%の割合はほぼ同じであるが、女子では「いやな気持ちでした」25.3%が「その通りだと思った」14.9%を10ポイントほど上回っている。

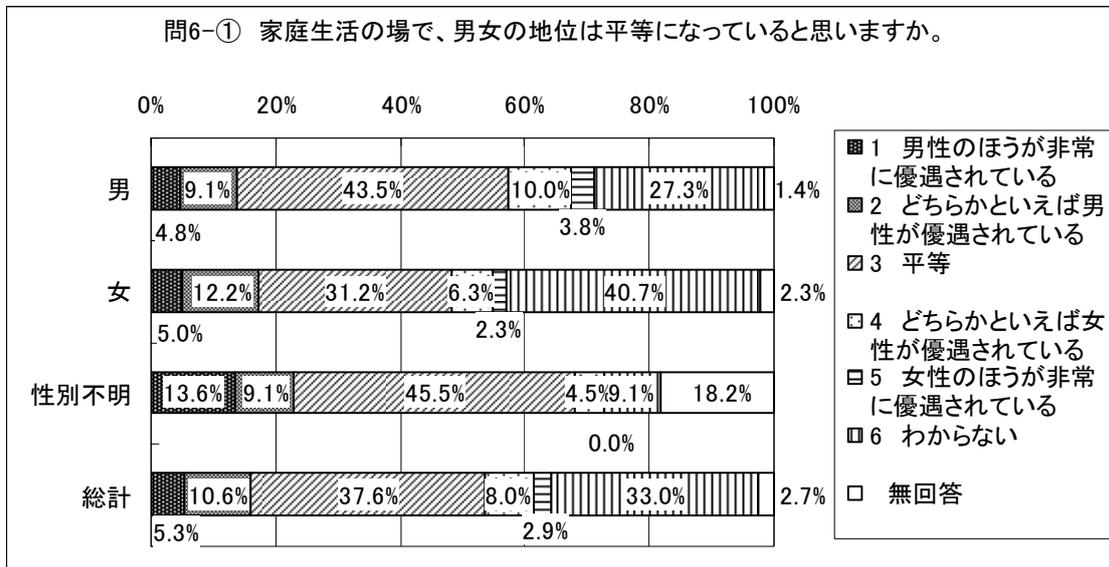
小学生調査との比較

中学生では男女とも「いやな気持ちでした」が「その通りだと思った」を上回っているが、小学生では逆に男女とも「その通りだと思った」が「いやな気持ちでした」を上回っている。

とくに女子は前者が11.9%後者が32.3%と、後者の割合が前者の3倍近くになっている。男子でも前者が16.1%後者が26.1%と2倍近くになっている。

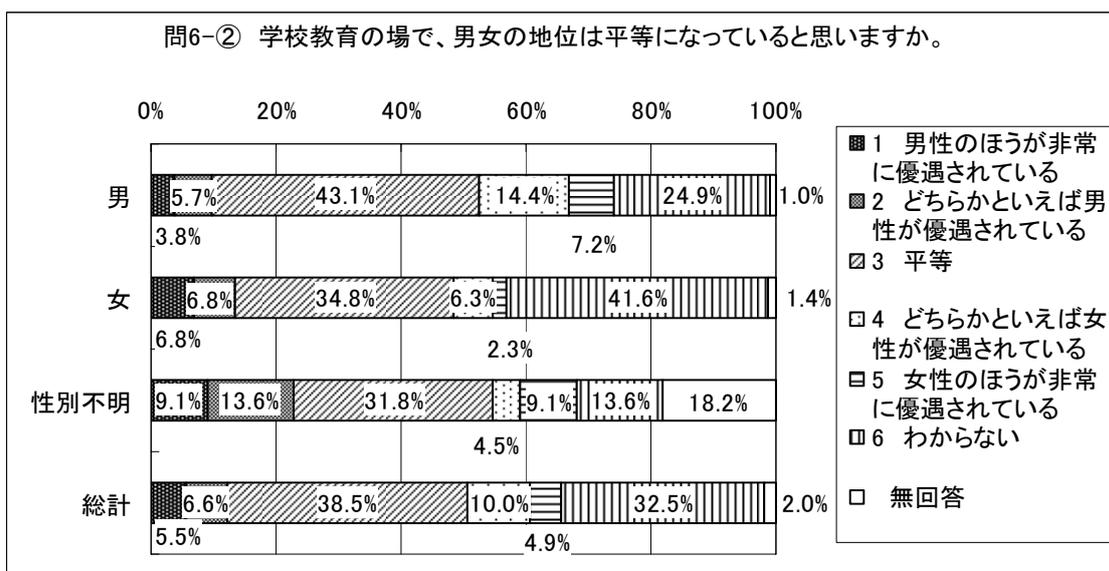
《4》男女の地位の平等感について

問6 次の①～③の場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

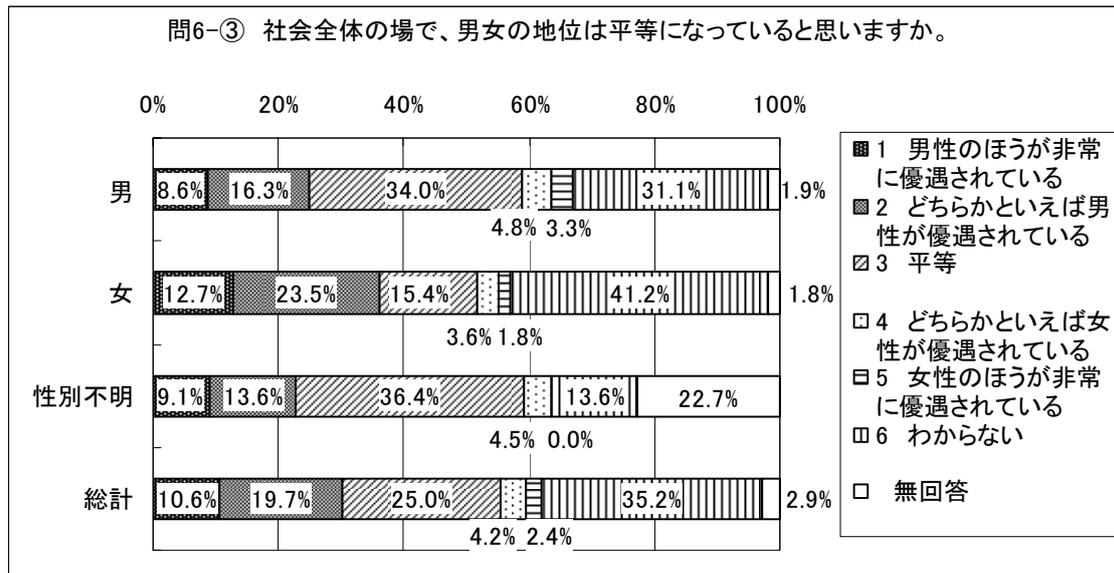


全体で見ると、「男性のほうが非常に優遇」「どちらかといえば男性が優遇」（以下「男性優遇」とする）が15.9%、「平等」が37.6%、「女性のほうが非常に優遇」「どちらかといえば女性が優遇」（以下「女性優遇」とする）が10.9%、「わからない」が33.0%となっている。

男女別にみると、女子の「わからない」が40.7%になっている。



全体で「男性優遇」が12.1%、「平等」が38.5%、「女性優遇」が14.9%、「わからない」が32.5%となっている。男女別では女子の「わからない」が41.6%になっている。



全体では「男性優遇」30.3%、「平等」25.0%、「女性優遇」6.6%、「わからない」35.2%となっている。男女別にみると、女子のほうが男子より「男性優遇」が多く、「平等」が少なくなっている。

男女の地位の平等感について、①家庭生活②学校教育③社会全体のそれぞれについて聞いた。この設問は内閣府や多くの自治体の調査で採用されている質問である。内閣府調査では、6つの分野と社会全体について聞いているが、ここではその中から2つの分野と社会全体を選んで聞いた。

- ①家庭生活 「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合（以下「男性優遇」）が15.9%となっている。
 - ②学校教育 「男性優遇」の割合が12.1%となっている。
 - ③社会全体 「男性優遇」の割合が30.3%となっている。
- 男女別にみると①②③のいずれも「男性優遇」の割合は女子のほうが高い。

内閣府調査との比較

平成16年におこなわれた内閣府の調査によれば、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合は、①家庭生活では49.3%、②学校教育では13.7%、③社会全体では75.0%となっている。

①家庭生活と③社会全体で、「男性優遇」の割合は内閣府調査のほうが中学生調査の2倍から3倍になっており、②学校教育はほとんど同じになっている。

和光市市民意識調査（平成19年）との比較

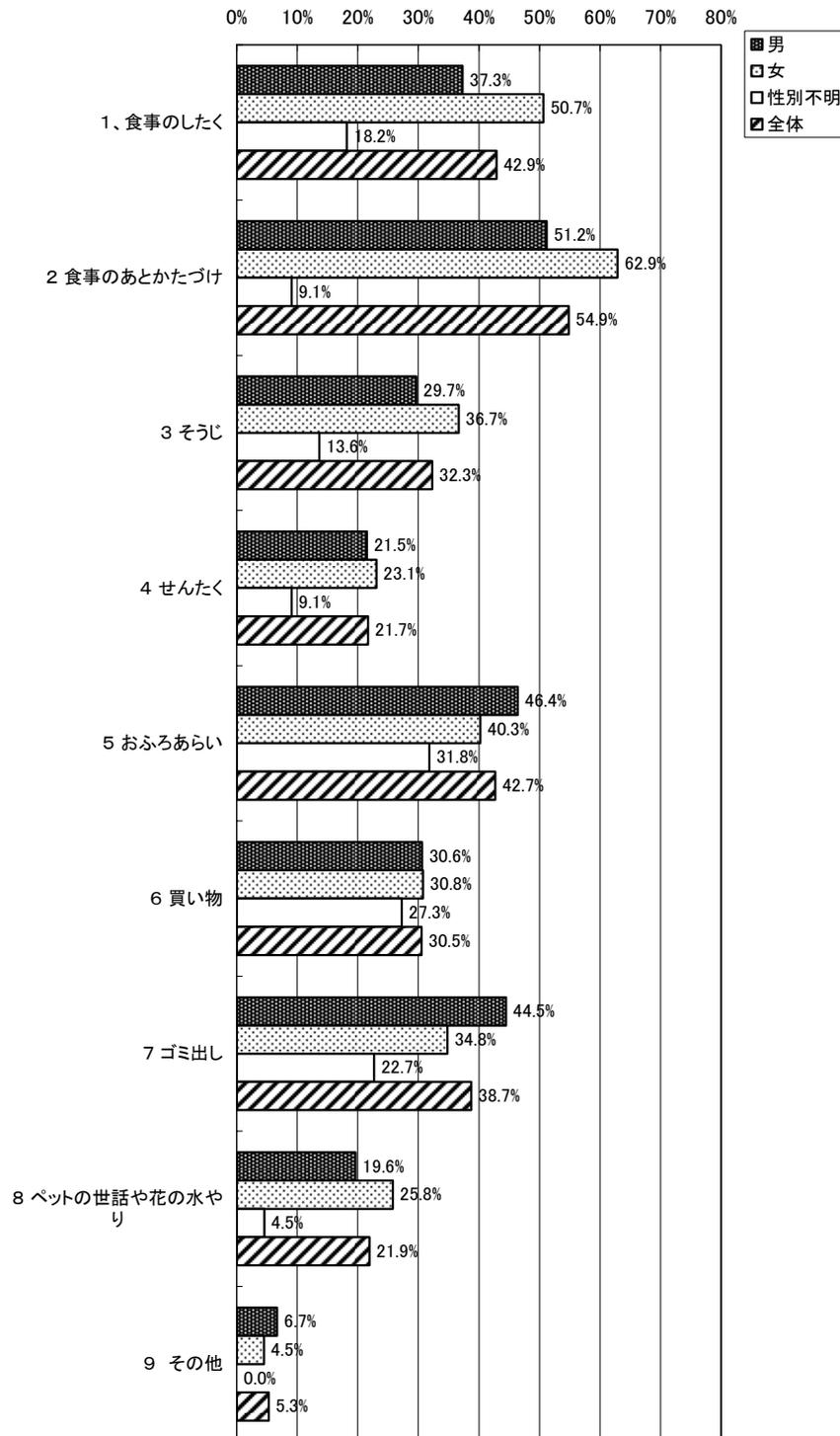
社会全体の場について同じ質問があり、それをみると全体で「男性優遇」62.9%、「平等」12.6%、「女性優遇」7.7%となっている。

中学生は大人に比べて男女の地位の平等感が高くなっている。

《5》家庭での役割分担

問7 あなたは家の中でどのようなお手伝いをしますか。あてはまる番号全部に○をつけてください。なにもしていない場合は○をつけなくてもいいです。

問7 あなたは家の中でどんなお手伝いをしますか。



家の中でどんなお手伝いをするか、「食事のしたく」など8つの項目をあげて聞いた。

よくする手伝いから順に「食事のあとかたづけ」「食事のしたく」「お風呂洗い」「ゴミ出し」「そうじ」「買い物」「ペットの世話や花の水遣り」「洗濯」の順であった。「食事のあとかたづけ」は54.9%のものが、また「洗濯」は21.7%のものが「している」と答えた。

男女別にみると、女子のほうが男子より多いのは、差が大きいものから順に「食事のしたく」女子50.7%男子37.3%「食事の後片づけ」女子62.9%男子51.2%「そうじ」女子36.7%男子29.7%となっている。逆に男子のほうが女子より多いものは「ゴミ出し」男子44.5%女子34.8%「お風呂洗い」男子46.4%女子40.3%である。

なお「その他」男子6.7%女子4.5%は男子は「布団の上げ下ろし」「PC」「回覧板を届ける」「自営業」「重いものを運ぶ」「門の開閉」など、女子は「布団の上げ下ろし」「自営業」「門の開閉」などであった。

小学生調査との比較

小学生調査と比較すると、お手伝いをしている割合はすべての項目で小学生のほうが中学生よりも高くなっている。

小学生では、「ゴミ出し」を除くすべての項目で女子が男子より高くなっており、とくに「洗濯」は女子33.8%男子17.3%と女子が男子の2倍になっているほか、「食事のしたく」女子71.5%男子50.4%「食事の後片づけ」女子67.4%男子51.0%も男女差が大きくなっている。

内閣府調査を参照して

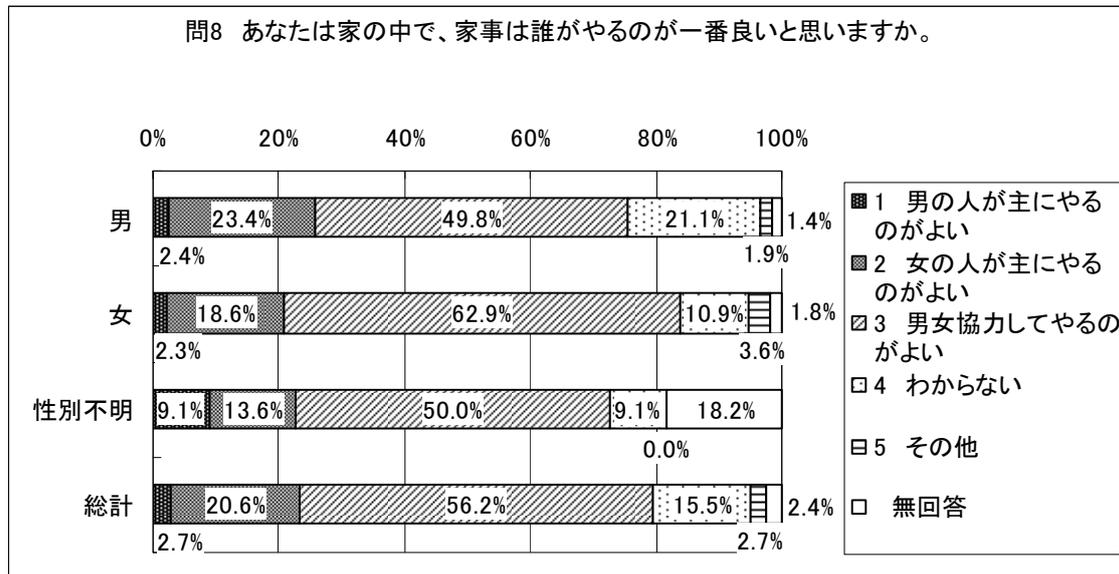
平成16年の内閣府調査では、「掃除」「食事のしたく」「食事の後かたづけ、食器洗い」の3つについて、家庭で主にだれが分担しているか聞いている。

| | 夫 | 妻 | 子ども | 家族全員 | その他の人 | わからない |
|---------------|-----|------|-----|------|-------|-------|
| 掃除 | 4.0 | 77.6 | 1.0 | 15.4 | 2.0 | 0.0 |
| 食事のしたく | 1.2 | 87.4 | 1.4 | 7.8 | 2.0 | 0.1 |
| 食事の後かたづけ、食器洗い | 3.5 | 78.9 | 2.0 | 13.9 | 1.8 | 0.0 |

*「結婚している」または「結婚していないがパートナーと暮らしている」人に対して、「あなたの家庭では、これからあげるような家事を、主にだれが分担していますか」。単位%

このように家庭では実際に家事を分担しているのは女性である。家の中のお手伝いは、男女ともしているとはいうものの、「食事の後片づけ」「食事のしたく」「掃除」など、女子のほうが男子より多くしている。

問8 あなたは家の中で、食事のしたくや掃除、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番良いと思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



家事はだれがするのが一番よいと思うか聞いた。

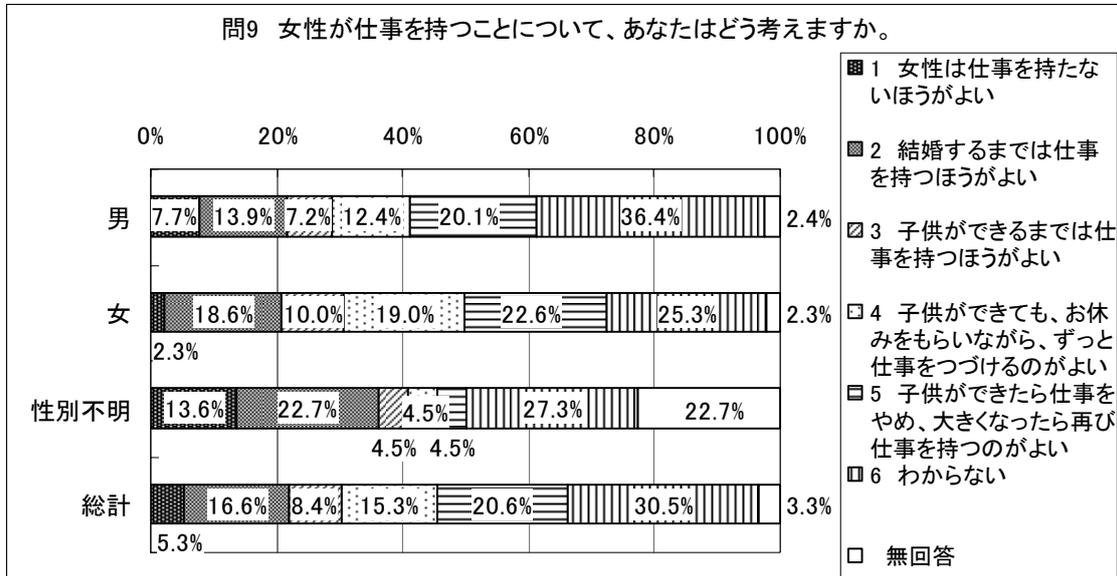
「男女が協力してやるのがよい」と答えたものが、全体で56.2%、男女別で見ると男子が49.8%女子が62.9%と男女で10ポイント以上の差がある。

小学生調査との比較

小学生の結果は中学生とほとんど同じで、「男女が協力してやるのがよい」と答えたものが、全体で58.1%、男女別で見ると男子が49.0%女子が67.7%と、男女でやはり10ポイント近くの差がある。男女とも家事は「男女が協力してやるのがよい」と考えるものももっとも多く、その割合は男子で約2分の1、女子で約3分の2を占める。

《6》女性が仕事を持つことについて

問9 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



女性が仕事を持つことについて、どう考えるか聞いた。次の選択肢からひとつ選んでもらった。

- ① 女性は仕事を持たない方がよい（仕事を持たない）
- ② 結婚するまでは仕事を持つ方がよい（結婚まで）
- ③ 子どもができるまでは仕事を持つ方がよい（出産まで）
- ④ 子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続ける方がよい（継続）
- ⑤ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい（中断）
- ⑥ わからない

全体で「わからない」がもっとも多く（30.5%）、続いて「中断」20.6%「結婚まで」16.6%「継続」15.3%「出産まで」8.4%「仕事を持たない」5.3%の順になっている。

男女別にみると、男子は「わからない」36.4%がもっとも多く、次いで「中断」20.1%「結婚まで」13.9%「継続」12.4%「仕事を持たない」7.7%「出産まで」7.2%の順になっている。

女子は「わからない」25.3%がもっとも多く、次いで「中断」22.6%「継続」19.0%「結婚まで」18.6%「出産まで」10.0%「仕事を持たない」2.3%の順になっている。

男女の「わからない」を比べると女子25.3%男子36.4%となっている。

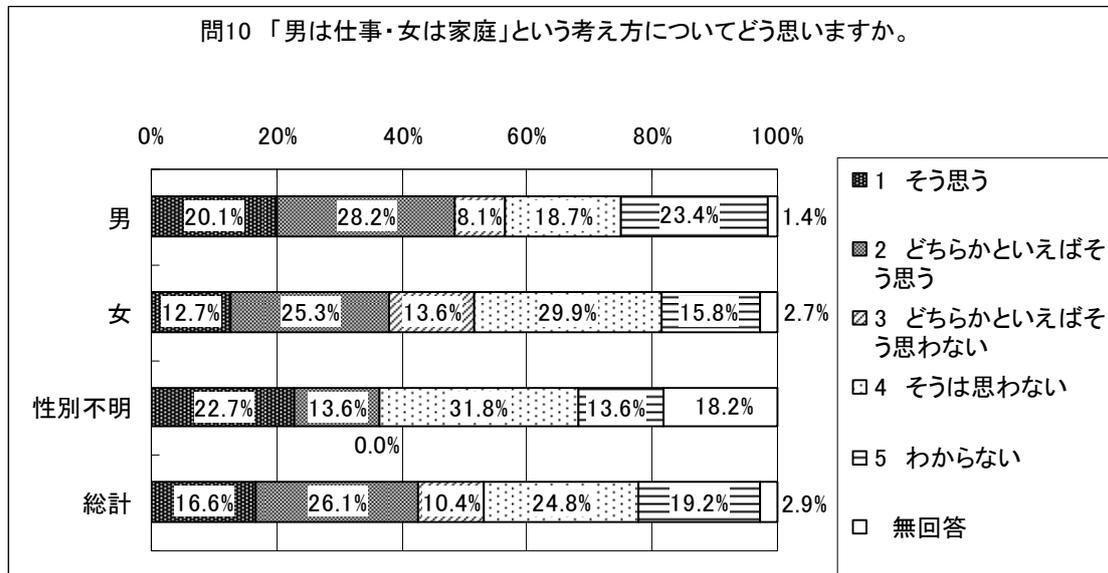
内閣府調査との比較

平成16年におこなわれた内閣府の調査に、「一般に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか」との設問があるので、比較することができる。それによれば最も多かったのが「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」40.4%「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」34.9%「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」10.2%「結婚するまでは職業を持つ方がよい」6.7%「女性は職業を持たない方がよい」2.7%となっている。

| | 内閣府 成人 | 和光市 中学生 |
|-----------------------------------|-----------|------------|
| 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい | 40.4 | 15.3 |
| 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい | 34.9 | 20.6 |
| 子どもができるまでは職業を持つ方がよい | 10.2 | 8.4 |
| 結婚するまでは職業を持つ方がよい | 6.7 | 16.6 |
| 女性は職業を持たない方がよい | 2.7 | 5.3 |
| その他 | 2.3 | — |
| わからない | 2.8 | 30.5 |

《7》性別役割分担について

問10 「男は仕事・女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思うか聞いた。問6と同じく、この設問も内閣府や多くの自治体の調査で採用されている質問である。

全体で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」（以下、賛成）の割合が42.7%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」（以下、反対）の割合が35.2%であった。「わからない」が19.2%であった。男女で大きな差があり、男子では賛成48.3%が反対26.8%より多いのに対し、女子では賛成38.0%反対43.5%と反対が賛成を上回っている。

小学生調査との比較

小学生では全体で賛成48.2%、反対34.0%、わからない16.3%であった。男女別にみると、男子では賛成52.8%、反対26.7%、わからない19.4%であり、女子では賛成43.9%、反対41.6%、わからない13.1%であった。

内閣府調査との比較

平成16年におこなわれた内閣府の調査によれば、「賛成」「どちらかといえば賛成」が45.2%「反対」「どちらかといえば反対」が48.9%であった。

和光市市民意識調査との比較

和光市市民意識調査では、賛成が41.4%、反対が51.4%となっている。

以上4種のデータから、子どものころには「男は社会、女は家庭」という考えに賛成するものが比較的多いが、大人になるに従って反対するものが増えることが伺われる。

《8》将来の職業について

問 11 あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。あてはまる番号を5つ以内で選んで○をつけてください。

将来どのような仕事につきたいと思うか聞いた。

男女別に上位5番目までは次のようになっている。

男子では「スポーツ選手」が1位で3人に1人が選んでいる。次いで「会社員」「公務員」の順になっており、この2つが10%を超えている。

女子では「保育園・幼稚園の先生」が1位で3人に1人が選んでいる。次いで「ペット屋さん・動物の飼育」「漫画家・イラストレーター」「画家・デザイナーなどの芸術家」「食べ物屋さん」「習い事の先生」の順になっている。いずれも10%を超えている。

上位5番目まで男女で同じ職業がない。

| | 男子 | | 女子 | |
|----|-----------|-------|----------------|-------|
| 1位 | スポーツ選手 | 33.5% | 保育園・幼稚園の先生 | 33.5% |
| 2位 | 会社員・銀行員 | 19.1% | ペット屋さん・動物の飼育 | 15.8% |
| 3位 | 公務員 | 12.4% | 漫画家・イラストレーター | 13.1% |
| 4位 | コンピュータ関係 | 9.6% | 画家・デザイナーなどの芸術家 | 12.7% |
| 5位 | 歌手など芸能人 | 7.7% | 食べ物屋さん | 11.8% |
| 5位 | 弁護士・検察官など | 7.7% | 習い事の先生 | 11.8% |
| 5位 | 消防士・救急隊など | 7.7% | | |

なりたい職業の6位以下は男女別に次のようになっている。()の単位は%。

男子 警察官・刑事(7.2) 学校の先生(6.7) 自動車・機械などのエンジニア(6.7) 建設業・大工など(6.7) 調理師・コック(6.7) ペット屋さん・動物の飼育(6.2) 食べ物屋さん(5.7) 自衛官(5.3) 学者・博士(4.8) 自動車・電車の運転手(4.8) パイロット(4.8) 宇宙飛行士(3.8) 福祉施設で働く人(2.9) 獣医(2.9) 習い事の先生(2.4) 通訳・翻訳家(2.4) 美容師・理容師(1.9) 漫画家・イラストレーター(1.4) 画家・デザイナーなどの芸術家(1.4) 看護師など病院で働く人(1.4) 保育園・幼稚園の先生(1.4) 医者(1.0) 作家・作曲家(1.0) 薬剤師(1.0) 花屋さん(0.5) フライトアテンダント(0.5)

その他(10.5) わからない(18.7) なりたくない仕事がない(1.0)

女子 歌手・タレントなどの芸能人(10.0) 美容師・理容師(10.0) 看護師など病院で働く人(8.1) 学校の先生(7.2) スポーツ選手(7.2) 公務員(6.3) 薬剤師(6.3) 獣医(5.9) 会社員・銀行員(5.4) 作家・作曲家(5.0) 調理師・コック(5.0) 福祉施設で働く人(4.5) コンピュータ関係(4.5) フライトアテンダント(4.5) 警察官

・刑事(3.6) 医師(3.6) 学者・博士(3.2) 自衛官(3.2) 花屋さん(3.2) 弁護士・
検察官・裁判官など(2.7) 宇宙飛行士(2.3) 通訳・翻訳家(2.3) 消防士・救急隊・
レスキュー隊(1.8) 建設業・大工など(1.4) 自動車・機械などのエンジニア(0.5)
自動車・電車の運転手(0.5) パイロット(0.5)
その他(8.1) わからない(14.9) なりたい仕事がない(2.7)

小学生調査との比較

男女別に上位5番目までは次のようになっている。上位5番目まで男女で同じ職業は「ペット屋さん・動物の飼育」のみである。

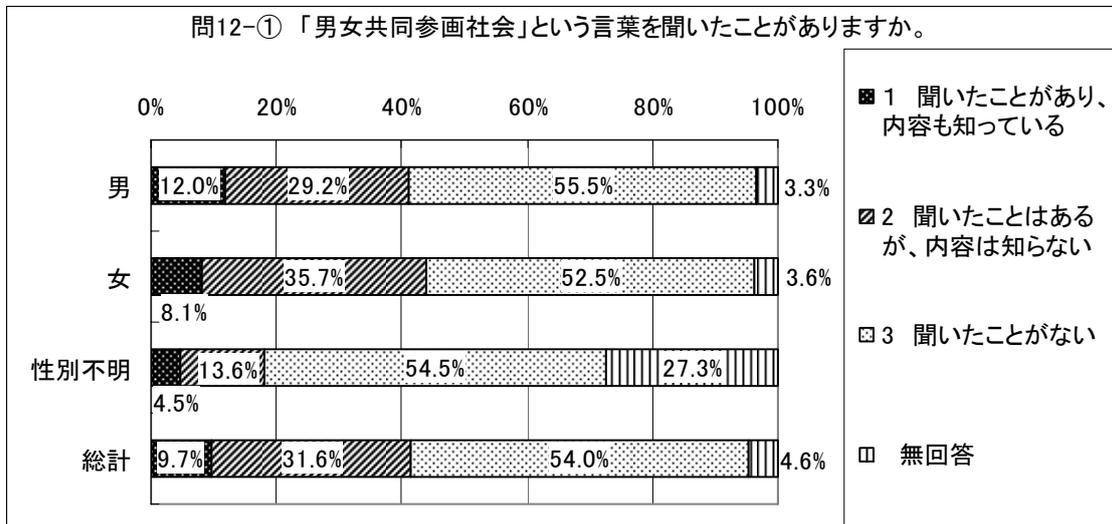
| | 男子 | | 女子 | |
|----|--------------|-------|----------------|-------|
| 1位 | スポーツ選手 | 50.7% | ペット屋さん・動物の飼育 | 38.0% |
| 2位 | 学者・博士 | 18.2% | 食べ物屋さん | 33.5% |
| 3位 | 建設業・大工など | 14.1% | 保育園・幼稚園の先生 | 27.6% |
| 4位 | ペット屋さん・動物の飼育 | 12.9% | 歌手など芸能人 | 22.6% |
| 5位 | 会社員・銀行員 | 11.4% | 画家・デザイナーなどの芸術家 | 18.4% |
| 5位 | 宇宙飛行士 | 11.4% | | |

男子の1位は小中学生とも「スポーツ選手」である。ほかに小中学生ともに5位以内に入っているのは「会社員・銀行員」である。

女子は小中学生とも5位以内に「保育園・幼稚園の先生」「ペット屋さん・動物の飼育」「画家・デザイナーなどの芸術家」「食べ物屋さん」の4つが入っている。

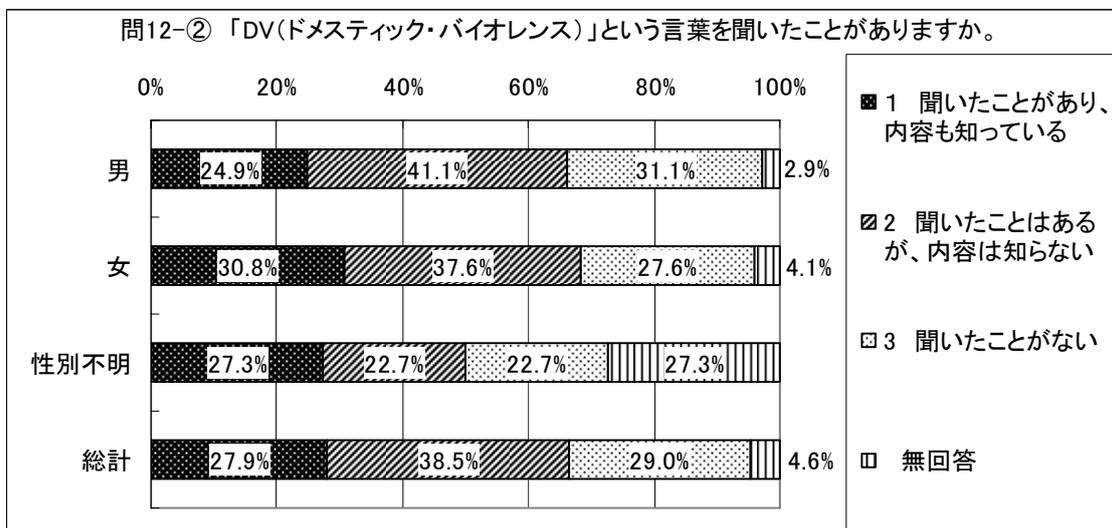
《9》男女共同参画に関する言葉の周知度

問12 あなたは次の言葉を聞いたことがありますか？ あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。



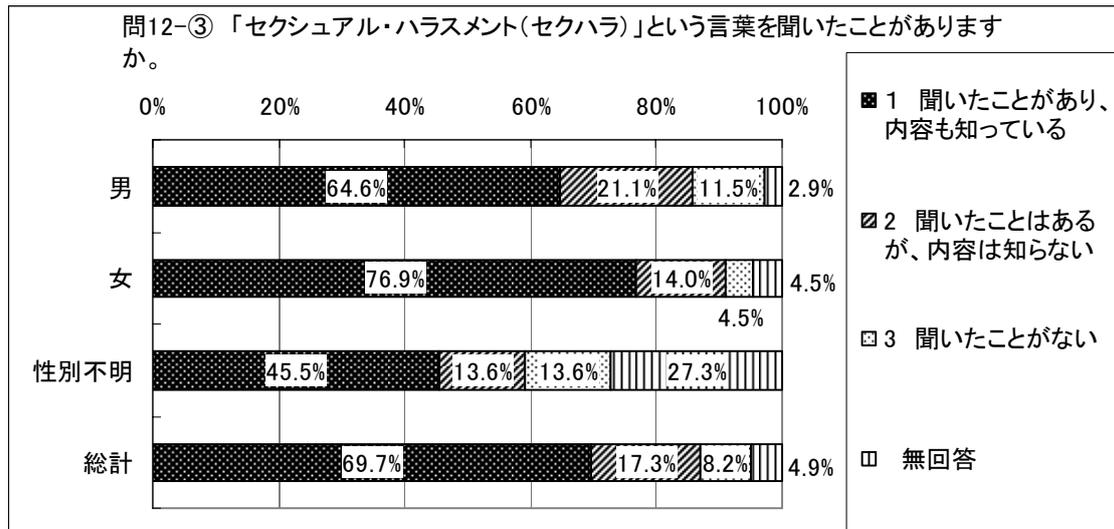
全体で「聞いたことがない」が半数以上に達する。「聞いたことがあり内容も知っている」は約10人に1人である。

男女別にみると「聞いたことがあり、内容も知っている」は男子12.0%女子8.1%である。



全体で「聞いたことはあるが内容は知らない」27.9%「聞いたことがあり内容も知っている」38.5%「聞いたことがない」29.0%がほぼ3分の1ずつとなっている。

男女別にみると「聞いたことがあり、内容も知っている」は男子24.9%女子30.8%である。



全体で約7割が「聞いたことがあり、内容も知っている」と答えている。その割合は女子のほうが男子より10ポイント以上高くなっている。「聞いたことがない」は全体で8.2%である。

①男女共同参画②DV（ドメスティック・バイオレンス）③セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の3つの言葉をとりあげ、それに対する知識があるかないかについて聞いた。

3つの言葉の中で最もよく知られているのは「セクシュアル・ハラスメント」で87.0%が「聞いたことがある」（「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」と答えている。次に「DV（ドメスティック・バイオレンス）」で「聞いたことがある」が66.4%になっている。「男女共同参画社会」の周知度が最も低く、「聞いたことがある」は41.3%にとどまった。

小学生調査との比較

小学生では「セクシュアル・ハラスメント」について69.3%が「聞いたことがある」と答えている。次に「男女共同参画社会」で「聞いたことがある」が37.6%になっている。「DV（ドメスティック・バイオレンス）」は28.7%である。

小学生と中学生では「男女共同参画社会」と「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の順位が逆転している。小学生から中学生へ「セクシュアル・ハラスメント」と「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の周知度は大きく高まっているが、「男女共同参画社会」の周知度はほとんど変わっていない。

内閣府調査との比較

平成16年におこなわれた内閣府の調査によれば、「男女共同参画社会」という言葉について見たり聞いたりしたことがあると答えたものの割合は52.5%であった。